

地球市民として生きる

—子どもの難民問題を例として

東京都公立中学校教諭

はじめに

授業で国際平和の単元を扱う時期は12月末頃から、1月になってからとなる。現行の学習指導要領では適切な課題を設けて行う学習を取り入れることになっている。しかし、現実には受験を目前に控えた3年生にとって、入試に関係すること以外はあまり学習に身が入らず、授業を展開するにも何かと苦勞するところである。我々教師としても、ややもすると領土や国連、NGOなどの基本的な言葉を説明して終わりになり、どうしても入試対策的なことが優先されがちとなる。また、東京都の場合は都立や私立の推薦入試が始まり、進路が決定した生徒も出始め、生徒の置かれた状況もさまざまであることが、授業を進めるうえで一層難しくしている。しかし、義務教育を修了する中学校最後の課題として、国際平和や難民の問題などは、事実を教えるだけでなく、しっかりと考え、自分の意見を持たせたい。難民問題は生徒にとってあまり身近ではなく難しいイメージがあって関心は低い。しかし、生徒は自分たちと同じ世代の世界の子どもたちのことには強い関心を示す。そこで、難民の問題も子どもに焦点を当てて考えさせていくようにした。

帝国書院の「中学生の公民 初訂版」(以下教科書)では事例に沿って学習を進めるやり

方をとっているが、この単元でもその手法を取り入れ、生徒にレポートをまとめさせるが、その導入として難民などの子どもの事例を紹介し、授業を進めるように設計した。

2 単元の構成

レポート作成といってもすべての時間を使って課題探究とするのではなく、授業で行ったワークシートをまとめていき、8時間で構成した。

- 第1時 単元のねらいと授業の進め方
戦争で犠牲になる子どもたち
資料の提示
- 第2時 資料の読み取りと報告
- 第3時 報告の続きとまとめ
学習課題の設定
- 第4時 国家と国際社会、国連のしくみ
- 第5時 地域機構の役割、日本の役割
- 第6～7時 課題追究
- 第8時 まとめとその他の世界が抱えている
課題「資源・環境問題」について

3 授業の展開

1) 導入の工夫

さまざまな手段を使って学習への関心を高めさせたい。まずは、このレポートが3年間の学習の集大成となるという意義を伝える。

しかし、入試等のことも配慮して、授業時間の中でまとめられるよう、過重負担にはしないと安心感を持たせる。

また、いつもとは違うという感じをもたせることも1つの方法である。いつも使うワークシートはB4判であるがA4判の用紙にして、表紙をちょっとよい紙を使うなど工夫することでやる気を喚起したい。

また、評価について説明することも大切である。3学期制であると3学期の評価は学年末試験だけで評価の材料が少ない。また、生徒にとっても入試と時期が近い学年末試験への勉強ができず不安に思っていることが多い。このレポートを高く評価することをあらかじめ伝えておくことは大切である。

さらに、ゲストティーチャーを呼ぶことも1つの方法である。ゲストティーチャーは単元の学習が進んでからのほうが、生徒からいろいろな疑問が生まれ質問が出せたりして学習が深まるが、この単元の場合は後になると生徒も入試の関係で欠席も多くなるので、導入で学習への関心を高めるために呼ぶのもよい。



生徒も入試の関係で欠席も多くなるので、導入で学習への関心を高めるために呼ぶのもよい。

導入で関心をもたせるため、次のような資料を使う。

この数字は何でしょうか？

- 7000万個
- 1個3ドル
- 90分に1人

<正解>

- 7000万個…世界に埋まっている地雷の数
- 1個3ドル…地雷1個の値段
- 90分に1人…被害者
- (カンボジア地雷撤去キャンペーンHPより)



「中学生の公民 初訂版」p.160

こうした数字から、いかにたくさんの地雷が今も使われていること、そして犠牲者の多さに驚きと関心を持たせたい (p.160地図)。

次に160ページの社会のワンシーンの子どもの表情に注目をさせ、どのように見えるか発表させる。武器を持ったり、片足が切断されている子どもの表情には明るくはつらつとしたものがないことに気づいていく。彼らの表情が暗いのはなぜだろうと投げかけ、彼らの抱えている背景を考えさせ、課題意識を広げていく。

2) 導入の資料について

生徒の意欲を高めたうえで、それぞれの生徒に世界の子どもたちの事例を用意して読ませ、その内容を報告させる。生徒の調べ学習を見ているとインターネットで写真などの視覚的な資料と結論だけを引用し、見た目はよくできているが、どうしてそのような結論が出たのか説明できないことが多い。そのため、ここでは短いけれども1つの資料からしっかりと読み取ることも学ばせたい。資料についてはインターネットのホームページで「日本ユニセフ協会 世界の子どもたち」と検索する

とさまざまな事例が紹介されていて活用できる。若干手間はかかるがクラスの数分の事例を用意しておきたい(日本ユニセフ協会資料)。

3) 資料の報告

この資料を生徒に読ませて、まとめさせる。3年生にとっては簡単な課題となるので、表現力を見るために次の指示を与え、やる気を起こさせたい。

- ・原稿を読む
練習を最低
3回は行う。
- ・1人2分
(なるべく
残り時間
ないように。
ただし2分
を越えては
いけない)
- ・なるべく原
稿を見ない
で発表する。

発表内容

- ①どこの地 日本ユニセフ協会 HP より
域、国の問題か
- ②いつ起こったのか
- ③どのくらいの人がどのような問題を抱えているのか。
- ④原因は何か
- ⑤どのような援助が行われているか
- ⑥この事例について私の感想

発表の際には世界地図を用意し、印をつけさせる。こうした活動を通して、世界各地でさまざまな理由で苦しんでいる子どもたちがいることが実感できてくる(p.160世界地図)。

4) 学習課題の設定

探究活動を行うと、原因や状況を詳しくま

とめて終わってしまうことがよく見られる。この單元では、国際社会の抱えるさまざまな問題をどう解決していくのかを考えさせたいのだから、学習課題でも、「どうしたら○○という問題がなくなるのか」、「○○問題を解決させる私の提案」という課題設定をさせる。

また、どうしていろいろな課題の中でその主題を選んだのか主題設定の理由もまとめさせたい。

5) 講義の授業の工夫

第4時、教科書の152ページからの授業を行う際もこのレポート作成と関連させて行う。各項目をA4判のワークシートにまとめる。この時期は授業に出られないこともあるので教科書を見て自学自習できる内容、授業で加える内容、資料の読み取り、考え、自分の意見をまとめるところを入れる。とくに、下に示すように各項目に課題探究につながる設問を必ず入れておく。また、各項目で評価項目を決めておき、評価欄をつけておくと最終的な評価をつける参考となり便利である。

No.1 国家と国際社会(ワークシート例)

紛争が起きた際に、日本政府の判断で支援活動を行うことができるのか

No.2 国連のしくみと活動

あなたの考える課題について、国連のどの機関がかかわるとよいのだろうか

No.3 地域機構の役割と発展

あなたの考える課題について、どのような地域機構がどのような役割を果たせばよいのだろうか

No.4 国際社会における日本の役割

日本にはどのようなことが望まれるのだろうか

No.5 国際社会のよりよい発展

私たちはなにができるだろうか

6) 課題追究

追究する内容

- ①事例をもとに原因を探る
 - ②世界は何ができるか
 - ③日本は何ができるか
 - ④私たちにはなにができるか
 - ⑤私にはなにができるか
 - ⑥この学習からわかったことと感想
- 探究時間の確保の工夫については入試の関

係で生徒がそろわないときなどがあるのでそうした時間を利用し確保したい。

7) 評価について

各プリントの評価と課題探究の評価を総合して評価をつけていく。

課題探究の評価の規準

関心…自分の問題としてとらえているか

課題を設定し、私に何ができるかを考えているか

思考判断…さまざまな立場からどのような援助ができるかを考えられているか

資料活用…根拠となることが示されているか

知識理解…授業で学習したことが生かされているか

4 まとめ

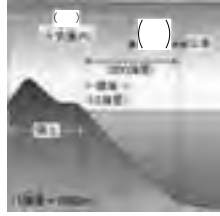
2012年度から新学習指導要領が完全実施される。新学習指導要領では「習得」と「活用」が重視され、また、3年間のまとめとしてレポートを作成することもあげられている。テーマを広げていけば新学習指導要領にも十分対応できる活動であると考える。

No. 1

国家と国際社会

学習課題

世界は国家によって構成されているが、国家とはどのような条件で成り立っているのだろうか。

- 1 主権国家とは何か。
- 2 国家の支配する領域（領土）を詳しく見るとどうなるか。（ ）に適語を入れ、右の図を完成させなさい。

- 3 排他的経済水域は領海とどのような違いがあるか。
- 4 沖ノ鳥島の排他的経済水域の面積を計算しなさい。（1海里=1852m）
- 5 「社会のワンシーン」を見てなぜここまでして島を守ろうとしているのか、日本の国土面積と比較して根拠を明確にして述べなさい。
- 6 ある国で紛争が起り、人々が難民となって困っている問題が起きました。日本の政府の判断だけで援助物資を送ることができるのでしょうか。
- 7 学習課題についての解答

思考判断	知識理解